

令和5年度 学校自己評価システムシート（山村国際高等学校）

本年度努力目標	1 学習指導においては、基礎・基本の徹底をはかるとともに、大学入試に対応できる応用力を育成する。また、生徒が主体的に授業に取り組む環境づくりに努める。
	2 進路指導においては、一人ひとりの進路に応じた適切な指導と、自己理解に向けた支援を行い、進路実現に努める。
	3 生徒指導においては、基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、自他を尊重する寛容と協力の精神の育成に努める。

達成感	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	おおむね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

第三者委員 5名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価（3月18日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○同じコース内における生徒の学力差が大きく、中には基礎学力が不足している生徒もみられる。そういった学力差をどのように埋めていくかが大きな課題である。	学習指導	○指導法の工夫・研究を重ねる。 ○課題や小テストを実施し、授業の定着を図る。 ○放課後セミナー等を通じて正課の授業で補えない苦手科目の克服を図る。	○私語・居眠りが減り、生徒の主体的に授業に取り組む姿勢がうかがえるか。 ○課題や小テストにより、授業の復習の機会を活用できたか。	私語・居眠りは以前に比べて明らかな改善している。授業に積極的に取り組む生徒が増えているが、一部主体性に欠ける生徒も見受けられる。	B	私語・居眠りについては、今後も継続して根気よく指導をしなければならない。積極的に授業に取り組む生徒が増えているが、今後はグループワークやアクティブラーニングを積極的に取り入れ、生徒が主体的に授業に参加できる授業づくりに取り組んでいく。
2	○教室環境を整え、協同してクラス作りに参加しようとする生徒が増えている。一方、精神面で不安を抱える生徒が一部に見られる。	学級経営	○一人ひとりの役割とその責任を意識づける。 ○他者を常に自己の指標とする協同性を身に付けさせる。	○教室内は常に整理整頓されているか。 ○クラスの友人関係は良好か。 ○自己の役割は責任をもって果たせたか。	環境美化を意識するとともに、クラス・学校行事における個々の役割も果たせているようであり、友人関係も概ね良好である。	B	全体的には良い方向に向かってはいるが、少数ではあるが、クラス内での役割を果たせず、友人関係も良好ではない生徒もいるので、注意深く見守り、指導していく必要がある。
3	○現状、ほとんどの生徒はよく校則を守り学校生活を送っているが、一部の生徒に遅刻や服装の乱れなどが見られる。	生徒指導	○5分前行動など、時間を守ることを意識させると共に、自己管理ができるように指導する。 ○保護者との連携を密にし、協力体制を整える。	○5分前行動は徹底できたか。 ○基本的な生活習慣は身についたか。 ○保護者の理解を得た指導がおこなわれたか。	概ね時間を守ることを意識し行動できている。また、保護者・生徒共に信頼関係の下に指導ができているようである。	A	生徒指導は保護者・生徒からも概ね理解されているようである。しかしながら、社会の環境の変化もあり、それに合わせた様々な校則等の見直しも今後の課題と考える。
4	○進路指導部の指導の下、自己の進路希望に向けて早期より努力する生徒が増えている。 ○自己の現状を知り、一つ上の目標を立てさせる。	進路指導	○進路選択をおこなう上で、一人ひとりの適性を見極めて指導する。 ○各自で数値目標を設定させる。	○生徒一人ひとりが自己の進路についてしっかり考えることができたか。 ○検定取得や掲げた数値目標等は達成できたか。	早期より生徒の進路意識は高まっている。また、検定取得者も増加傾向にある。結果として大学への進路状況は上昇している。	A	自己の進路実現に向けてよく努力し、志望した進路目標を達成できた生徒が増加している。一方で大学等へ入学後のミスマッチによる中退者が一部見られるため、より正確な進路情報などの収集に努めていかなければならない。
5	○明るく挨拶ができる生徒が多い。また、部活動や生徒会活動、学校行事に積極的に参加し、充実した学校生活を送っている生徒が多い。	学校生活	○すべての生徒が協同して学校行事に参加できるような確かな指導を行う。 ○部活動の活性化と充実した成果をめざして指導する。	○積極的に学校行事や部活動に参加できたか。 ○部活動では各部が目標とする充実した成果をあげることができたか。	制限が解かれた学校行事では、生徒の積極的に参加する姿が見られた。部活動では全国大会常連のダンス部に加えて吹奏楽部、バトン部、生物部も優秀な成績を収めた。	A	新型コロナウイルスによる行動制限が解かれたことで、体育祭や文化祭等の学校行事がほぼ従来の形で行われたが、文化祭では一般公開を経験したことのない生徒も多かったため、来年度は早期より綿密な計画を立てる必要がある。

第 三 者 評 価	
実施日 令和6年2月29日	
第三者委員からの意見・要望等	評価
授業見学の際、生徒は皆真面目に授業を受けていた。授業中の居眠りについては、まず授業担当が眠くならないような授業の工夫・改善をおこなうべきである。	B
校内、よく清掃がなされている。今後、教育活動を含め、あらゆる場面で生徒の声をしっかりと生かしていくことも必要ではないか。	A
生徒・保護者より校則に対する意見が多く見受けられるが、私立高校として校則が厳しいのは当然である。ただし、生徒に対してなぜその校則があるのか、その理由を説明しなければならない。	A
将来の進路を見据えた指導が十分に行われているようであり、あとは生徒本人次第である。ホームページなどを通して、保護者向けに進路に関する情報をさらにわかりやすく発信できるとよい。	A
アンケートの自由記述を見ると、生徒の主体的で建設的な意見も見られるため、そのような意見は反映できるとよい。ユニバーサルな学校づくり（支援が必要な生徒は一定数いる）はますます重要と考える。	A